朝日山だより

祝日企画「みんなで新元号のお祝いをしよう！」－令和色塗り－

社会福祉法人 あさひ会
生活介護事業所　朝日山学園・グループホームあさひ
ヒューマンサポートタッチ
佐賀県東部発達障がい者支援センター結
〒８４１－００７３　佐賀県鳥栖市江島町字西谷３３００－１
ＴＥＬ（０９４２）８４－３２６６
（０９４２）８１－５４０９（支援室）
ＦＡＸ（０９４２）８４－３２８６
Ｅ－Ｍａｉｌ： asahiyama@grace.ocn.ne.jp

『巻頭ご挨拶』

朝日山学園 管理者 髙取 正憲

今年も半年が過ぎました。未だにＧＨあさひに於いてはスタッフ不足が続き、スタッフを始め、ヘルパー、保護者の方々にご協力いただき、運営出来ている状況です。

先日、介護留学生受け入れ説明会があり、参加してきました。現在の福祉人材不足を補うために介護留学生を支援するプログラムの説明でした。介護留学生は日本語を学び、介護スキルを学ぶ。学生を受け入れる大学は少子化や福祉離れによる学生不足を解消することが出来、介護施設は留学生をアルバイトとして或いは卒業後の介護者として人材不足解消を図ることが出来る。介護留学生、大学、介護施設、三方にとって良い面のあるプログラムだと思います。

人材不足はこれからどうなっていくのでしょうか？少子化の問題、福祉事業所側が魅力をアピール出来ていない等指摘されることがありますが、新聞等で取り上げられる福祉事業のイメージ（給料が安い、虐待等）の影響もあると思います。厚生労働省は介護人材の処遇改善として月額平均８万円相当の処遇改善を行うと発表し、新聞等ではあたかも８万円給与が上がるかのようにアピールしていますが、詳細は新聞等に掲載されていません。今回の処遇改善で実際に同金額の処遇改善が出来る事業所がどのくらいあるのでしょうか？分配の仕方等から、そんなに多いとは思えません。地域生活支援拠点の機能強化や最近、参議院選で「れいわ新選組」から初当選し話題になっている重度訪問介護においても体制や報酬が伴わずに踏み込めない事業所側の状況があります。

私たちは知的障がい、自閉症スペクトラム障がい等様々なハンディを有しながら日常生活を送っている方々の生活全般の支援をしています。その方の楽しみや喜びを大切にしながら支援しています。利用者の笑顔

は私たちの力となり、やりがいを感じることが出来ます。このことは紛れもない事実ではありますが、今、様々な部分でバランスが崩れてきていると思います。厚生労働省が考える障害福祉施策、報酬改定と現場の状況、障害者の支援を目指す学生が減ってきている現状と介護人材不足解消のための外国人受け入れ、障がい者虐待の問題など、問題すべてが互いに関係している状況の中で、ますます問題が大きくなっているように感じます。毎日のように介護や障がい関係で事故や怪我、虐待等のニュースを聞くこと自体、報酬が十分でない表れのような気がしています。本来の私たちの使命である障がいを有した方のより豊かな生活を目指せるように「れいわ新選組」から初当選された重度の身体障がいを有するお二人が発端となった重度訪問介護を皮切りに利用する側、される側ともに有益で有用なサービスとなるように制度の見直しをして頂くと共にお二人の活躍にも期待したいと思います。

～日中支援の現場から～　　『散歩について』

朝日山学園　支援係長　江藤　敬一

学園での散歩支援では、以前は近隣のジョギングコースに車で移動して歩いていました。その当時の、散歩に対してスタッフの考えは、気分転換や外に出て身体を動かすこととし、それぞれの個々の利用者のペースに一人ひとりスタッフが付き添っていました。座り込まれる方、急に途中で引き返す方、走り出す方と利用者の方の行動は様々で、当時は、利用者同士で手を繋いで、列をつくり、まとまって歩くという発想もなかったように思います。

その後、研修の機会を通して、集団形成という考えを学ばせて頂き、朝日山学園でも日々の支援の中で、利用者同士で「手をつなぐ」機会を作っていきました。スタッフよりも、利用者同士の時の方が、お互いに相手を意識し手を握ったり、待ったりしている様子も垣間見え、スタッフも感動を覚えました。以前は、散歩を拒否していた利用者の方も、徐々に前を歩く人たちに合わせ一定のリズムで歩くと、表情にも変化が見られ、落ち着いて歩くことが出来るようになりました。歩行時に、利用者の表情、腕の曲がり方、手のつなぎ方、足の出方、つま先立ち歩き、すり足等々、観察する事も多いです。利用者のその時の状態を観察する事で視点も増え、その時々に合わせたアプローチをスタッフも考えるようになりました。

「歩く」事に対してスタッフの考え方にも柔軟性が加わり、歩行を取り入れた活動が増えたのに加え、毎日の積み重ねが、昨年度は利用者のインフルエンザの罹患者なしという結果につながり、体力の向上も実感しています。

歩行の活動を通して、まだまだ課題もあります。しかしこれからも利用者皆さんと「歩く」事を通しながらスタッフも観察の目を養い、利用者の状態に合わせた支援が行えるように努めていきたいです。

～ケース会議報告～　『S さんの支援について』

朝日山学園　支援係長　古川　聖子　　支援員　藤本　舞優

S さんは、日頃から環境や情報の変化等に自らすぐに気づかれるくらい、周りの事をよく見ています。それ故に、自身に関わる事以外でも、「こうでないといけない」といった自分なりのルールを持ちがちな方です。また、気になる事も多く、その時は衝動的に動かれ、相手の役割を奪ってし

まう時もあり、その際は、スタッフの言葉も耳に届かず、周囲が無理に静止すると、興奮して時には攻撃的な行動に繋がってしまう事もありました。

　その様なトラブルが起きた時は、スタッフは、周囲の安全を確保する対応をとり、Ｓさんとは帰る前の「一日を振り返る機会」で話をし、役割をとられた相手の利用者の方の気持ち等を一緒に考えていきましたが、行動の改善には至らず、状況が揃ってしまうと、同じ事が繰り返されていました。そこで改めて、ケース会議で話し合い支援の見直しを行いました。

　会議では、原因となる状況を排除するだけではなく、その状況に遭遇した時に「気にせず、やり過ごす」「行動よりも先にスタッフに伝える」を目標に置き、「事前の対応」と、起きた時の「事後の対応」について話し合いました。

【事前の対応】

・行動の表出が目立つ作業面で、Ｓさんルールが表出する前に、朝の会などで、先にスタッフから日々変化していく作業行程をＳさんも含めて個々の利用者の方に伝えていく。

・出来るだけ時間のすき間なく役割を依頼し、色々な作業に取り組む時間を増やし、やるべき事に意識を向けてもらう。

・望ましい行動が取れた時に、評価、称賛を行う事をスタッフで統一する。

【事後の対応】

・トラブルが生じた時は、時間が経って状況の話し合いをしても、Ｓさんの気持ち、感情も薄れ、その場面を振り返れないと推測された為、トラブルが生じた後に、時間を空けずに話し合う機会をつくる。

・相手とトラブルになった際に、先ずＳさんはどういう気持ちで、どの位の感情（怒り）だったのか表にまとめたもので数値化してもらい、感情

を具体化していく。

・その数値に沿って、表記されている感情（怒り）の解消方法が出来る様にスタッフがＳさんを導いていく。

　以上の改善点をＳさんの活動の中に取り入れていきました。その一つとして、散歩の出発までの待ち時間の過ごし方で、ちょっとしたワークやお仕事等、隙間なく活動に取り組んでもらいました。活動に取り組む事で視線が自身の手元に移り、周囲へ意識が向く事が少なくなり、以前と比べてＳさん自身も落ち着いた気持ちで過ごせる様になりました。

　次に、トラブルがあった際に、その場面でＳさんと話していきました。感情的になる場面があった時、スタッフがＳさんに理由を聞き、状況を把握した上で感情を数値化した表を提示して今の気持ちを確認し、その時の解消方法を一緒に確認しました。始めのうちは、それでも収まらず興奮する様子もありましたが、積み重ねていく事で、次第にアプローチを受け入れて落ち着いた行動に繋げられる様になりました。また、困った時にはスタッフに教えてもらう事を繰り返し伝えていき、伝えることが出来た時は、Ｓさんへ称賛をしていきました。最近では何か困った事があると、「誰かスタッフー、どうにかして」とその場で知らせてくれる事が以前より増えています。今回、ケース会議ではＳさんに対してどういう支援ができるか繰り返し話し合い、現場の中で取り組み、Ｓさんの変化を見ていく中で、利用者の方を中心に意見を出し合いながら模索していく、しっかりと観察する目や視点を養う事の大切さを実感することが出来ました。これからも、利用者の方と真摯に向き合い、理解を

深めていけるよう、日々の支援に取り組んでいきたいと思います。

～グループホームあさひより～

『生活を支える現場から、利用者の方の権利を考える』

GH あさひ　支援課長　菅　洋平

私達支援スタッフは、家族ではなく、「支援者」として、利用者の方の生活、人生を支える事を大事な仕事としています。

その現場に於いて、言葉使いを中心とした関わり方が家族や友達の様になってしまう事もあります。時として、言葉も使い分けた方が効果的な場面もあると思います。親近感もわき、アットホームな感じで、利用者の方もそちらの方が良い表情や反応を見せてくれる時があります。しかし、私達は、どこかで支援者である事は忘れてはいけないと思います。

もし利用者の方に対して、「家族のように関わろう！」としたとしても、究極の場面では、私達スタッフは自身の都合を優先してしまうと思います。しかし、本来家族であれば、絶対に目を背ける事はされないと思います。支援者側の都合の良い解釈で、「家族の様に」「支援者として」を使い分けるよりも、目の前の利用者の方に対して、どのように関わって行くと喜んで、楽しんで、安心して頂けるか考えていく事が先ずスタートではないかと思います。

次に考えるのは利用者本位、利用者主体の生活ということです。そこに関してはご自身で中々適切な社会一般的な判断が難しい方に於いて、極端に『選択』『自己決定』を求める事は、はたして良い事なのかと感じています。利用者、支援者間の双方の歩み寄りが大切であり、そこに共存が育まれるのではないかと思っています。その為、私の思う利用者本位、主体と言う観点は『気持ちに寄り添った支援』ではないかと思い、その為に、気持ちを理解する、理解できるように日頃から研鑽を重ね、その方が地域や社会で快適に安心して過ごす事が出来るように日々心掛けて支援する事が大切ではないかと思っています。

最後に、私達支援者は日頃から利用者の気持ちがどこにあるのか、様々な判断を求められる事もあります。日々、利用者の方を中心に理解を積み重ねていく事を意識しながら判断していく事と同時に、「制度だから」、「決まりだから」とうわべだけで権利を守っていると過信せず、利用者の「心」に目を向けていける支援者となれる様に今後も心掛けていきたいと思います。

～行事報告～　　『朝日山学園　ピクニック』

支援主任補佐　中西　麻衣佳

今年度のピクニックは、あいにく天候に恵まれなかった一面もありましたが、ピクニックならではの園外でお弁当を食べる事ができました。普段、学園での食事支援は、利用者の特性に応じて事前に食事をカットしたり、小皿

や用途に合わせてスプーン、フォーク等万全の準備で行っています。しかし、今回は最低限の準備にとどめ、スタッフが十分に安全を見守りをしつつ、利用者方がその状況にどのくらい適応出来るのか様子を見てみました。結果、予めカットしなくても自身で少しずつ食べられたり、いつもスタッフが先にしていましたが、ソースの袋も自らカットして、まんべんなくかけようとする行動の発見にも繋がりました。また、日頃中々意思表出をされない方が、自ら周囲のスタッフに出来ない部分のサポートを求める事もでき、利用者の持つ能力について改めて発見できた機会となりました。

　今回のピクニックの場面を通して、今までの支援にとらわれて、今の利用者の方に必要以上の支援環境を提供していたのかもしれない事に気づきました。その結果が、利用者の皆さんの出来る可能性を奪ってしまいます。利用者の方の出来る事が日々変化する事を信じて、その変化をきちんと掴む柔軟性を持ち、その状況にあった環境をどう整えるか、これから私達に必要な課題かもしれません。本当の意味での利用者理解というのは、終わりはなく、日々の様子の中にヒントが点在していると思います。それをくみ上げられる機会をこれからも積極的につくっていきたいと思います。

～訪問歯科より～

担当　生活支援員　林　裕之

　現在、あさひ会では、訪問歯科を受け入れ利用者の皆様の歯の健康を整える事にも力を入れています。

どんなに年齢を重ねても、しっかりと噛んで食べる事は、身体の健康を維持するためにもとても大切な事です。それには健康な歯が欠かせません。訪問歯科では、普段の歯磨きで、なかなか歯ブラシがとどかない箇所もしっかりとブラッシングを行い汚れを取ることが出来ます。それでも取れない汚れ「歯石・ステイン」などは機械を使ったスケーリング「歯石除去」を行う事によって取り除くことができ、虫歯や歯周病予防にも効果的です。歯科医師・歯科衛生士による口腔内のチェックにより初期の虫歯なども発見することができ大事な歯を失うリスクも減ります。

これからも、お口の中の環境を整え利用者の方が美味しく食事を楽しんでいただき健康を維持していくお手伝いをさせて頂きます。

◎寄付者ご芳名

井手　美智子 様　　原口　敏子 様　　古澤　文雄 様

上尾　央子 様　　永家　カツヨ 様　　末藤　久美子 様

篠原　清次 様　　廣瀬　耕三郎 様　　権藤　ツヤ子 様（食材）

佐賀カントリー倶楽部チャリティゴルフ大会有志一同 様

以上の皆様にご支援いただきました。

ありがとうございます。

☆ボランティア募集しています

朝日山学園・GH あさひでは、利用者の皆さんと一緒に散歩や作業をして頂ける方、お話し相手になって頂ける方を募集しています。皆様よりのご連絡をお待ちしています。

(朝日山学園支援室　担当　橋口

TEL：0942-81-5409)

～人事異動・新しい職員の紹介～

〇稲富　敏之さん

　平成３１年４月より、グループホームあさひから、日中支援の朝日山学園の生活支援員として勤務となりました。

〇稲富　和代さん

　平成３１年４月より、グループホームあさひから、日中支援の朝日山学園の看護師として勤務となりました。

☆グループホームあさひ☆

〇山根　明子さん

　４月よりお世話になります。山根明子と申します。利用者の方の気持ちに寄り添える支援ができる様に、一人ひとりの利用者の方としっかり向き合っていきたいと思います。よろしくお願いします。

〇盛岡　兆さん

　６月より就職いたしました、盛岡兆です。利用者の皆様にとって良い支援が出来る様に頑張って行きます。よろしくお願いします。

〇片渕　博幸さん

　７月より就職いたしました、片渕博幸です。初めての職種ですが、一生懸命頑張って行きます。よろしくお願いします。

▣編集後記

支援という役割の魅力は人と人との関りの中にあると思います。日々の支援の中で、利用者の方の「心」にふれる機会が持てる事は、大変すばらしい事であると感じています。そこを如何に多くの方に伝え、共有ていく事は、私達の大切な役割であると思います。人を支援するという事の魅力に如何にして関心を寄せてもらえるか、年号が変わり新しい時代に入っても、コツコツ発信を続けていきたいと思います。　（橋口）

◎４～８月行事等【朝日山学園】

４月	5,14	ケース検討会
	9	虐待防止委員会
	11	献立会議
	12	ケース会議
	17	誕生会
	26	ケース会議、職員会議
５月	3,17,31	ケース検討会
	10	ケース会議
	14	虐待防止委員会
	16	献立会議
	24	ケース会議、職員会議
	＜利用者ピクニック＞	
６月	7,21	ケース検討会
	11	虐待防止委員会
	12	誕生会
	13	献立会議
	14	ケース会議
	28	ケース会議、職員会議

７月	5,19	ケース検討会
	8	中堅職員研修(県社協)
	10	誕生会、福祉マンパワー合同就職面談会
	11	虐待防止委員会
	12	ケース会議
	16	倫理人権部会研修会(知的障害者福祉協会)
	18	献立会議
	22～23	全国知的障害関係施設長等会議
	26	ケース会議、職員会議
８月	2,30	ケース検討会
	8	虐待防止委員会
	9	ケース会議
	14～16	夏季休暇
	19～23	介護等体験実習受入（教員）
	21	献立会議
	22	誕生会
	23	ケース会議、職員会議

＊ホームページでは表紙以外の写真もカラー表示したものがご覧頂けます。